

それいけ!

新米先生

最終回

可能性あふれる

新米先生へ

文 | リンリン (ペンネーム)
イラスト | 松井晴美



約5年間にわたり、新米先生にアドバイスをしてきたこのコーナーも、いよいよ最終回を迎えました。連載が始まった頃に新米だった先生方は、今ではもう自信をつけて、学校内での重要な役割を担っていることでしょう。

学校の現状から…

今の学校は、若い先生が急増し、右も左もわからないうちから、即戦力として期待され教壇に立ちます。

また、様々なことを丁寧教えてくれたベテラン先生が職場に少なくなったこと、勤務時間や校務の都合上、助言や指導をする余裕がない先生が増えたことなどから、新米のうちから自分で考えて、仕事をこなさなくてはならなくなりました。

どこの学校でも若い先生が朝早く、夜遅く、また休日出勤してまで頑張っている姿が見られるようになりました。

私が新米だった頃よりもずいぶんしっかりした先生が増えてきたように思います。

そんな現状だから起こる心配なことを中心に、新米先生にアドバイスをしたいと思います。

○頑張ることは大事！ でも…

ある新米先生の話です。真面目でしっかりしたA先生は、朝、学校には一番早く登校し、帰りは学校にいられるギリギリの時間まで頑張っていました。

元氣いっぱい4年生と気持ちのよいスタートを切ったのですが、5月の終わり頃になると笑顔が減り、休みがちになり、そしてとうとう教室に入ることができなくなり、1学期終了を待たずに辞めることになってしまいました。

希望に満ちた新米先生が辞めていくケースは少なくありません。もともと何かしてあげられたのでは…と、とても悔しい気分になります。

教師という仕事は、どこまでやればよいという線引きがはっきりできない仕事です。丁寧にやればやるほど、時間の制約がかかってきます。

いかにメリハリのある仕事ができるか、要領や段取りのよい先生の様子を上手に学べるというですね。

○人間らしくないじゃない！

私たち教師は、人と関わる職業です。同僚や保護者、子どもなど、たくさんの人と関われば、うまくいかないことも増えてきます。

先生には真面目で努力家な方が多いから、悩んでしまうこともあるでしょう。もちろん、私だって「もう辞めたい」と思ったことも何度もあります。そのたびに、同僚の助言や子どもたちの笑顔に励まされてきたものです。

人間だれしも失敗はあります。また、傷つくことも多くあります。でも、きっと子どもも保護者も、私たちに完璧などを求めています。ただ物事に誠実に向き合う元気で明るい先生を求めているのです。先生が疲れていたり、沈んだ表情をしていたり、怒りやすかったりすると、子どもたちに影響を与えてしまいます。仕事を忘れて気分転換できる趣味や、自分の悩みを相談できる環境を作りましょう。とにかく心と体の健康が一番です。

○やりたくないと言われても…

「最近の若者は、自分がこれをやりたいたい、こうしてみたいと思うことはないのか…」そうばやいているベテラン先生の姿が見られます。「どうも小さくまとまりすぎる」と。

そんなことを言われても、一日をこなしていくのが精いっぱい、やりたくいことがわかりません…私も新米先生の頃に、何度そう心の中で言い返したことでしよう。

最近になってようやくわかることは、「どうすればいいですか？」ではなく、「こうしたいのですが…」「こんなことをやってみたいのですが…」と言ってもらえたら、喜んで力になれるのにな…という事です。

忙しい毎日の中で、指導や助言の余裕がなく、気づいたら放任主義で育てられる新米先生が多い中で、わからないときは自分から教えてもらう姿勢はとても大事です。

新米先生の今しか学べないことはたくさんあります。少し経験を積むと、今さら聞けないと後悔することがすごく多いのです。大きな失敗してもフォローしてもらえる今のうちに、楽しみながらいろいろなることに挑戦してほしいと思います。

○「先生らしくなった」と言われて…

私も新任の頃には「子どもの中にいるとまぎれて先生かどうかわからない」とか、「先生というよりお姉さんという感じ」、「大学生みたい」という、未熟さを暗に指摘されるような評価をされました。

が、数年後には「先生らしくなった」と褒められるようになりました。

でも「先生らしくなった」って、実は褒め言葉ではないのではないかとドキッとさせられることもあります。子どもとの距離感が遠くなってしまったのかもしれない。

ふと振り返ると、教材研究が足りなくても何となくこなせてしまっている自分や、以前は休み時間に子どもと遊んでいたのに、職員室に戻ってほっとしている自分に気づかされます。

子どもに寄り添うことを忘れてしまっていることを時々思い知らされ、新米先生のひたむきな姿から学ぶことが多くありました。

休み時間は子どものために使おう。もつと子どもたちと対話しよう。教材研究をしっかりとしよう。どんなに経験を重ねても、初心を忘れずにいたいものです。

○子どもたちと「未来を創る」

素敵な職業

私たちの職業は、未来を担う子どもたちの心に寄り添い、一緒に学び、育てる職業です。子どもたちと一緒に「未来を創る」と考えるとワクワクしてきませんか。

辛いことが多い分、喜びも大きい素敵な職業です。悩むことが多くても、最終

的にはこの仕事に生きがいや誇りをもっていてほしいと思います。

こんな時代だからこそ、新米先生の熱意やエネルギーがパワーが必要なのです。

いつまでも新米の心を忘れずに、一緒に頑張っていきましょう。

さあ、それいけ！ 新米先生！



「それいけ！新米先生」の連載は今回で終了です。♡愛読ありがとうございました。